



平成25年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



平成25年10月31日

上場取引所 東 札

上場会社名 サッポロホールディングス株式会社

コード番号 2501 URL <http://www.sapporoholdings.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 上條 努

問合せ先責任者 (役職名) コーポレートコミュニケーション部長 (氏名) 小松 達也

TEL 03-5423-7407

四半期報告書提出予定日 平成25年11月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年12月期第3四半期の連結業績(平成25年1月1日～平成25年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年12月期第3四半期	369,531	4.2	9,440	68.9	8,868	100.1	5,474	817.1
24年12月期第3四半期	354,780	10.6	5,590	△54.4	4,431	△58.1	596	4.1

(注)包括利益 25年12月期第3四半期 18,668百万円 (585.4%) 24年12月期第3四半期 2,723百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円銭	円銭
25年12月期第3四半期	14.01	—
24年12月期第3四半期	1.52	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円銭
25年12月期第3四半期	597,707	149,425	24.4	374.25
24年12月期	597,636	134,946	22.1	336.60

(参考)自己資本 25年12月期第3四半期 146,065百万円 24年12月期 131,795百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
24年12月期	—	0.00	—	7.00	7.00
25年12月期	—	0.00	—	—	—
25年12月期(予想)	—	—	—	7.00	7.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年12月期の連結業績予想(平成25年1月1日～平成25年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
通期	512,000	4.0	15,300	6.1	14,000	2.3	5,500	2.0	14.05

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有

新規 一社 (社名) 、 除外 1社 (社名) サッポロ飲料株式会社

(注)平成25年1月1日付にて、ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社とサッポロ飲料株式会社の合併を実施したことにより、サッポロ飲料株式会社が消滅したため特定子会社ではなくなり、ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社が新たに特定子会社となりました。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

詳細は、添付資料5ページ「2. サマリー情報(その他)に関する事項(2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年12月期3Q	393,971,493 株	24年12月期	393,971,493 株
② 期末自己株式数	25年12月期3Q	3,681,858 株	24年12月期	2,418,030 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年12月期3Q	390,695,181 株	24年12月期3Q	391,562,666 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料5ページ「1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	5
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	5
2. サマリー情報（その他）に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第 3 四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第 3 四半期連結累計期間	9
(3) 継続企業の前提に関する注記	10
(4) セグメント情報	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	12
(6) 重要な後発事象に関する注記	12

○第 3 四半期決算短信補足説明資料

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間（平成25年1月1日～平成25年9月30日）の日本経済は、金融緩和や経済対策を背景に、明るい兆しが見えつつあるものの、消費環境は依然不透明な状況にあります。

このような経済環境のもと、当社グループの売上高は、国内酒類事業でビール類の売上数量が前年同期を上回ったことや、国際事業で北米及びベトナムにて売上数量が引き続き順調に前年同期を上回ったことに加え、円安の影響もあり、大幅な増収となりました。なお、国際事業で前年に連結子会社となった米国のP Bチルド飲料メーカー「シルバー スプリングス シトラス社」の損益項目の連結開始が前年4月以降であったことに加え、食品・飲料事業で「ポッカ エース マレーシア社」の損益項目を1月より連結開始したことも増収の要因となっています。

営業損益は、国内酒類事業で前年同期に対して増収になったことに加え、販売費が減少したことや、国際事業の北米及びベトナムでの増収により、大幅な増益となりました。

その結果、連結売上高3,695億円（前年同期比147億円、4%増）、営業利益94億円（前年同期比38億円、69%増）、経常利益88億円（前年同期比44億円、100%増）、四半期純利益は54億円（前年同期比48億円、817%増）となりました。

なお、「ポッカコーポレーション社」と「サッポロ飲料社」との統合会社「ポッカサッポロフード&ビバレッジ社」が、当期より事業を開始しています。

以下、事業セグメント別の概況は記載のとおりです。当期より「国内酒類事業」で区分していました「サッポロ流通システム社」及び「食品・飲料事業」で区分していました「ポッカロジスティクス社」を「その他」の区分に変更しています。なお、「ポッカロジスティクス社」は、7月1日付にて「サッポロ流通システム社」との間で吸収合併を行い、消滅しました。

また、「食品・飲料事業」で区分していました「ポッカ フード シンガポール社」を「外食事業」の区分に変更しています。なお、「ポッカ フード シンガポール社」は、4月1日付にて「サッポロライオン シンガポール社」へ商号変更しています。

これに伴い、前年同期比較につきましては、前年数値を変更後セグメント区分に組み替えた数値で比較しています。

【国内酒類事業】

ビール類総需要は、前年同期比99%に留まったものと推定されます。ジャンル別の売上数量では、ビールと発泡酒は微減、新ジャンルは伸びが鈍化したものの、引き続き前年同期を上回る需要となった模様です。

このような中で、国内酒類事業は、ビール類において主力ブランドへ経営資源を投下するとともに、新たな価値提案を積極的に行い、サッポロファンの拡大に努めました。また、ノンアルコールビールテイスト飲料やRTD（※）に成長の足がかりを求め、さらにはワイン洋酒や焼酎の基盤を強化して、商品多層化によるブランド価値向上に取り組んでまいりました。

ビールでは、エビスブランドにおいて、2月に数量限定発売した「薫り華やぐエビス」に続き、5月には「エビス プレミアムブラック」を新発売し、同ブランドの売上数量は前年同期を上回り伸長しました。また、新ジャンルでは、2月の「麦とホップ」「麦とホップ<黒>」のリニューアル発売に続き、4月に続いて9月にも「麦とホップ<赤>」を数量限定発売し、お客様から多くの支持をいただきました。さらに、6月には世界初のプリン体0.00mgを実現した「極ZERO（ゴクゼロ）」を新発売し、お客様から大きな反響をいただくとともに、売上数量も販売計画を上回る水準で好調に推移しています。その結果、ビール類合計の売上数量は前年同期を上回り、シェアアップを果たすことができました。

ノンアルコールビールテイスト飲料では、2月の「サッポロ プレミアムアルコールフリー」「サッポロ プレミアムアルコールフリー ブラック」のリニューアル発売に続き、7月には増量缶を数量限定発売し、引き続きお客様からご好評をいただいています。

RTDでは、4月に数量限定発売し、大きな反響をいただきました「ノーベル製菓社」とのコラボレーション商品である「サッポロ 男梅サワー」を9月に通年商品として発売し、売上数量は計画を上回って推移しています。また、伸長を続けるボトルRTD市場において、「バカルディ モヒート」ボトルに続き、「バカルディ ピニャコラーダ フィズ」ボトルを7月に新発売し、「バカルディ」ブランドの認知度アップとファンの拡大を図りました。

ワインでは、輸入ワインの重点商品である「イエローテイル」において、9月に新商品「イエローテイル スウィート・レッド・ルー」を発売し、ラインナップ強化を図りました。また、国産プレミアムワインブランド「グランポレール」が引き続きご好評をいただきました。その結果、ワイン全体の売上高は前年同期を上回りました。

洋酒では、「バカルディ クラシックカクテルズ モヒート」をはじめとする「バカルディ社」商品各種が、売上高の増加に寄与しました。

焼酎では、焼酎甲類乙類混和市場において、前年発売の「芋焼酎 こくいも」と「麦焼酎 こいむぎ」が引き続きご好評をいただき、売上高は前年同期を大きく上回りました。

以上の結果、国内酒類事業の売上高は1,953億円（前年同期比31億円、2%増）と増加したことに加え、販売費をはじめとしたコストコントロールにより、営業利益は55億円（前年同期比46億円、541%増）となりました。

※R T D：Ready To Drinkの略。栓を開けてそのまま飲める低アルコール飲料

【国際事業】

北米においては、本格的な景気回復には依然不透明な状況が続き、ビール市場の総需要は2～3%減少したものと推定されます。一方、経済成長力の高いアジアのビール市場は、引き続き順調に成長を続けています。

このような中で、国際事業は、強みとするプレミアムビール市場に対し引き続き積極的な販売活動を行い、カナダでは、「スリーマン社」の売上数量（「サッポロ」ブランドの委託生産分及びカナダ国内販売分を除く）が前年同期比104%と7年連続で前年同期を上回りました。米国では、「サッポロUSA社」の「サッポロ」ブランドの売上数量が前年同期比107%になりました。また、前年1月に51%出資した「シルバー スプリングス シトラス社」は、北米市場の飲料事業で売上数量を順調に伸ばしています。

ベトナムでは、前年4月以降「サッポロ」ブランド構築に向けてフルマーケティングを続け、テト（旧正月）商戦期間を中心に前年同期比で大きく売上を伸ばしました。韓国では、前年1月に業務提携先である「メイル乳業社」のグループ会社に15%出資し、同国内の家庭用及び業務用市場へのビール販売を加速する取り組みを続けています。オセアニアでは、「クーパーズ社」とのライセンス生産を核として同市場での販売強化に取り組みました。シンガポールでは、グループ内のシンガポール子会社との協働で同国内の家庭用市場への販路を拡大しています。これらの取り組みにより、アジアを中心とした北米以外のビールの売上数量は前年同期比152%となりました。

以上の結果、国際事業の売上高は、現地通貨建ての既存事業の伸長のほか、「シルバー スプリングス シトラス社」の損益項目の連結開始が前年4月以降であったことに加え、円安の影響もあり、362億円（前年同期比99億円、38%増）となり、営業利益は10億円（前年同期比8億円、596%増）となりました。

【食品・飲料事業】

国内飲料の総需要は、前年同期比102%で推移したものと推定されます。また、レモン食品（調味料）は前年同期比99%、インスタントスープ（カップスープ含む）は前年同期比100%にて、推移したものと推定されます。

このような中で、食品・飲料事業は、1月より統合会社「ポッカサッポロフード&ビバレッジ社」の営業を開始し、主力ブランドへ投資を集中することにより、ブランドの強化と育成を図りました。

国内飲料食品事業は、国内飲料ブランドカテゴリーにおいては、主に自販機チャネルを対象に缶コーヒーの販促を展開し、購買意欲の促進に取り組みました。「がぶ飲み」シリーズにおいては、3月より展開しているプロモーションを継続したことや、夏場に炭酸飲料カテゴリーが牽引したこともあり、好調に推移しました。レモン・ナチュラルフードカテゴリーにおいては、「キレートレモン スパークリング 410ml PET」をリニューアル発売し、ナチュラル志向のターゲットに向けた販促と連動し、ご好評をいただきました。海外ブランドカテゴリーにおいては、ドイツ産天然炭酸水「ゲロルシュタイナー」に注力し、順調に販路を拡大しました。スープ・食品カテゴリーにおいては、「じゅくりコトコト」シリーズのラインナップに新たに追加した「牡蠣のポターージュ」が好調に推移し、ブランド全体の売上に寄与しました。業務用カテゴリーにおいては、「男梅シロップ」を発売し、多くの飲食店に導入されました。その結果、3月以降の売上高は回復の兆しが見えてきたものの、前年11月から12月の統合準備の影響を受けた1月から2月の売上減少に加え、統合による商品アイテム削減の影響もあり、前年同期を下回りました。

国内外食事業は、コンビニエンスストアやファーストフードチェーンの低価格コーヒー販売等との競争が激化していますが、コーヒーショップ「カフェ・ド・クリエ」が、きめ細かなメニューの投入、既存店の店舗改装・新規出店等の施策により、好調に推移しました。

海外飲料食品事業は、シンガポールにおける価格競争の激化を背景として、収益面で影響を受けましたが、輸出売上は、中東市場等が好調に推移しました。また、1月より損益項目の連結を開始した「ポッカ エース マレーシア社」が順調に推移し、売上高に寄与しました。

海外外食事業は、昨年来、香港における中国本土からの観光客の減少等による市場全体の冷え込みの影響を受け、やや低調に推移しました。

以上の結果、食品・飲料事業の売上高は、国内飲料食品事業の減収があったものの、「ポッカ エース マレーシア社」の損益項目を1月より連結開始したことによる純増もあり、959億円（前年同期比25億円、3%増）となりましたが、統合に伴うコストの増加により、営業損失は15億円（前年同期は1億円の損失）となりました。

【外食事業】

国内外食業界は、需要喚起に向けた販促活動の強化や、新たな顧客層の獲得に向けた業態及びメニュー開発等により、顧客獲得競争が激化しており、依然として厳しい経営環境にあります。

このような中で、外食事業は、最大の謝恩イベント「8月4日はビヤホールの日。」を中心に各種イベントやフェアを実施することにより需要を喚起するとともに、法人需要の獲得に向けた企業訪問を強化し、最盛期の来客数の拡大を図りました。また、名物料理の開発や、サービスレベルの向上に向けた取り組みも進めました。

国内においては、計9店舗の新規出店を行いました。収益構造改革の一環として不採算店舗16店舗を閉鎖したことにより、9月末の店舗数は186店舗となりました。

海外においては、「日本で培ったビヤホール文化を世界に発信する」ことを目的に、シンガポールにて「銀座ライオン ビヤホール」の1号店を9月下旬にプレオープンしました。また、菓子・ケーキ販売店の「リヴゴーシュ」をシンガポールに1店舗出店したことにより、海外店舗数は11店舗となりました。

以上の結果、外食事業の売上高は202億円（前年同期比3億円、2%増）となり、営業利益は2億円（前年同期比0億円、17%減）となりました。

【不動産事業】

不動産業界は、首都圏オフィス賃貸市場において、空室率は改善傾向にありますが、賃料水準は弱含みの状況が続きました。

このような中で、不動産賃貸事業は、中核施設である「恵比寿ガーデンプレイス」をはじめ首都圏を中心とする保有物件において、引き続き高稼働率を維持しました。

来年開業20周年を迎える「恵比寿ガーデンプレイス」では、これまで以上に、お客様に「豊かな時間」「豊かな空間」を感じていただける「街」となるべく、ハード・ソフトの両面からバリューアップを推進しております。地下2階飲食フロアでは、来年4月に大型高級レストランの出店が決定し、共用部の大幅な改装に着手しました。また、4月より進めている非常用発電設備の増設工事も、来年春完成に向けて順調に進捗しています。

不動産開発では、3月に着工した「(仮称)サッポロ恵比寿ビル」の再開発工事が、来年秋の竣工を目指し順調に進んでいます。また、銀座四丁目交差点に位置する「サッポロ銀座ビル」の再開発については、関係者との協議を重ねる等、引き続き検討を進めています。

以上の結果、不動産事業の売上高は168億円（前年同期比4億円、3%減）、営業利益は67億円（前年同期比3億円、5%減）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

連結財政状態

当第3四半期連結会計期間末における資産は、受取手形及び売掛金の減少等があった一方、商品及び製品、投資有価証券の増加等によって、前連結会計年度末と比較して0億円増加し、5,977億円となりました。

負債は、短期借入金の増加等があった一方、コマーシャル・ペーパー、未払酒税の減少等によって、前連結会計年度末と比較して144億円減少し、4,482億円となりました。

純資産は、その他有価証券評価差額金、為替換算調整勘定の増加、当四半期連結累計期間の四半期純利益の計上等によって、前連結会計年度末と比較して144億円増加し、1,494億円となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成25年12月期の通期連結業績予想につきましては、平成25年2月8日に発表しました連結業績予想から修正は行っておりません。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

平成25年1月1日付にて、ポッカサッポロフード&ビバレッジ(株)とサッポロ飲料(株)の合併を実施したことにより、サッポロ飲料(株)が消滅したため特定子会社ではなくなり、ポッカサッポロフード&ビバレッジ(株)が新たに特定子会社となりました。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益（損失）に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,755	9,818
受取手形及び売掛金	83,581	66,127
商品及び製品	20,372	24,322
原材料及び貯蔵品	12,072	13,141
その他	12,763	13,552
貸倒引当金	△287	△217
流動資産合計	138,258	126,745
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	384,995	388,775
減価償却累計額	△205,155	△210,229
建物及び構築物（純額）	179,839	178,545
機械装置及び運搬具	210,465	215,992
減価償却累計額	△170,803	△175,949
機械装置及び運搬具（純額）	39,661	40,043
土地	115,413	114,994
建設仮勘定	4,425	5,576
その他	39,242	38,279
減価償却累計額	△25,520	△24,860
その他（純額）	13,722	13,418
有形固定資産合計	353,061	352,578
無形固定資産		
のれん	37,541	35,237
その他	7,444	7,887
無形固定資産合計	44,985	43,125
投資その他の資産		
投資有価証券	35,670	51,035
長期貸付金	9,783	9,627
その他	17,263	16,045
貸倒引当金	△1,386	△1,450
投資その他の資産合計	61,330	75,257
固定資産合計	459,377	470,961
資産合計	597,636	597,707

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	32,985	34,774
短期借入金	55,270	62,849
コマーシャル・ペーパー	47,000	34,000
1年内償還予定の社債	10,000	—
未払酒税	33,397	20,717
未払法人税等	3,830	2,577
賞与引当金	1,860	3,012
預り金	12,358	10,764
その他	46,443	54,221
流動負債合計	243,146	222,917
固定負債		
社債	32,000	42,000
長期借入金	113,376	105,940
退職給付引当金	7,385	6,122
役員退職慰労引当金	26	16
受入保証金	32,914	32,580
その他	33,840	38,702
固定負債合計	219,543	225,363
負債合計	462,689	448,281
純資産の部		
株主資本		
資本金	53,886	53,886
資本剰余金	46,308	45,910
利益剰余金	31,393	33,362
自己株式	△1,199	△1,256
株主資本合計	130,389	131,903
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,122	15,081
繰延ヘッジ損益	9	34
為替換算調整勘定	△3,725	△954
その他の包括利益累計額合計	1,406	14,162
少数株主持分	3,151	3,360
純資産合計	134,946	149,425
負債純資産合計	597,636	597,707

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第 3 四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成24年 1 月 1 日 至 平成24年 9 月 30 日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成25年 1 月 1 日 至 平成25年 9 月 30 日)
売上高	354,780	369,531
売上原価	225,121	237,193
売上総利益	129,659	132,337
販売費及び一般管理費		
販売奨励金及び手数料	23,846	23,755
広告宣伝費	16,825	16,368
給料及び手当	21,851	22,627
賞与引当金繰入額	2,271	1,844
退職給付費用	2,629	2,535
その他	56,643	55,765
販売費及び一般管理費合計	124,068	122,897
営業利益	5,590	9,440
営業外収益		
受取利息	198	194
受取配当金	380	533
持分法による投資利益	210	113
為替差益	66	468
回収ギフト券損益	368	—
その他	689	831
営業外収益合計	1,914	2,142
営業外費用		
支払利息	2,610	2,069
その他	462	644
営業外費用合計	3,072	2,713
経常利益	4,431	8,868
特別利益		
固定資産売却益	15	60
投資有価証券売却益	21	3,491
特別利益合計	36	3,551
特別損失		
固定資産除却損	584	413
減損損失	46	289
投資有価証券評価損	1,398	20
投資有価証券売却損	64	3
事業構造改善費用	—	185
特別損失合計	2,093	912
税金等調整前四半期純利益	2,373	11,508
法人税等	2,027	6,112
少数株主損益調整前四半期純利益	346	5,395
少数株主損失 (△)	△250	△79
四半期純利益	596	5,474

(四半期連結包括利益計算書)
(第 3 四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成24年 1 月 1 日 至 平成24年 9 月 30 日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成25年 1 月 1 日 至 平成25年 9 月 30 日)
少数株主損益調整前四半期純利益	346	5,395
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,835	9,958
繰延ヘッジ損益	2	61
為替換算調整勘定	563	3,252
持分法適用会社に対する持分相当額	△24	—
その他の包括利益合計	2,377	13,272
四半期包括利益	2,723	18,668
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,924	18,230
少数株主に係る四半期包括利益	△200	438

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報

[セグメント情報]

I. 前第3四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注1)	合計	調整額	四半期連結 財務諸表計 上額 (注2)
	国内酒類	国際	食品・飲料	外食	不動産	計				
売上高										
外部顧客への売上高	192,212	26,331	93,451	19,945	17,342	349,283	5,497	354,780	-	354,780
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,827	26	215	-	1,873	3,942	14,580	18,523	△18,523	-
計	194,040	26,358	93,666	19,945	19,215	353,226	20,077	373,303	△18,523	354,780
セグメント利益又は損失(△)	864	148	△139	273	7,160	8,308	△301	8,007	△2,417	5,590

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物流事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の合計額と四半期連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

セグメント利益又は損失(△)	金額
報告セグメント計	8,308
「その他」の区分の損失(△)	△301
全社費用(注)	△2,338
セグメント間取引消去	△78
四半期連結財務諸表の営業利益	5,590

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変更)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II. 当第3四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注1)	合計	調整額	四半期連結 財務諸表計 上額 (注2)
	国内酒類	国際	食品・飲料	外食	不動産	計				
売上高										
外部顧客への売上高	195,331	36,236	95,980	20,277	16,857	364,683	4,847	369,531	-	369,531
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,908	54	198	0	1,979	4,141	14,246	18,388	△18,388	-
計	197,239	36,291	96,179	20,278	18,837	368,825	19,093	387,919	△18,388	369,531
セグメント利益又は損失(△)	5,545	1,035	△1,523	226	6,788	12,072	113	12,186	△2,746	9,440

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物流事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の合計額と四半期連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

セグメント利益又は損失(△)	金額
報告セグメント計	12,072
「その他」の区分の利益	113
全社費用(注)	△2,568
セグメント間取引消去	△177
四半期連結財務諸表の営業利益	9,440

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社の連結子会社であるサッポロ流通システム(株)と(株)ポッカロジスティクスは、グループ本社機能を担うサッポログループマネジメント(株)の傘下にあるサッポログループ物流(株)の下で、平成25年5月1日にグループの物流事業を再編しました。

これに伴い、第1四半期連結会計期間より、従来「国内酒類事業」に区分しておりましたサッポロ流通システム(株)及び従来「食品・飲料事業」に区分しておりました(株)ポッカロジスティクスを「その他」の区分に変更しております。

また、連結子会社間の株式譲渡による組織構造の変更に伴い、第1四半期連結会計期間より、従来「食品・飲料事業」に区分しておりましたPOKKA FOOD (SINGAPORE) PTE. LTD. を「外食事業」の区分に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後のセグメント区分で記載しております。

(注) 1. 「(株)ポッカロジスティクス」は、平成25年7月1日付にて「サッポロ流通システム(株)」との間で吸収合併を行い、消滅しました。

2. 「POKKA FOOD (SINGAPORE) PTE. LTD.」は、平成25年4月1日付にて「SAPPORO LION (SINGAPORE) PTE. LTD.」へ商号変更しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変更)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

- (5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

- (6) 重要な後発事象に関する注記
該当事項はありません。